

電波政策 2020 懇談会 サービス WG モバイルサービス TF (第 6 回) 議事要旨

1 日時

平成 28 年 5 月 10 日 (火) 16 : 00 ~ 18 : 00

2 場所

中央合同庁舎第 2 号館 (総務省) 8 階 第一特別会議室

3 出席者 (敬称略)

構成員 :

森川主査、三瓶主査代理、岩浪構成員、宇佐見構成員、栄藤構成員、龍宝代理 (河合構成員代理)、木谷構成員、斉藤代理 (黒田構成員代理)、島田構成員、関根構成員、井形代理 (谷口構成員代理)、丹波構成員、橋本構成員、林構成員、藤原構成員、青山代理 (行武構成員代理)

総務省 :

輿水総務大臣政務官、福岡総合通信基盤局長、渡辺電波部長、佐々木総合通信基盤局総務課長、田原電波政策課長、中沢移動通信課長、新田国際周波数政策室長、中村新世代移動通信システム推進室長、小川移動通信課企画官、庄司電波政策課企画官

4 議事要旨

(1) 開会

(2) 議事

① 事務局からの説明

資料に基づき、事務局から説明が行われた。

② 質疑応答・意見交換等

事務局からの説明の後、質疑応答・意見交換等が行われた。内容は以下のとおり。

○ 農業のような広いフィールドでの用途には、なるべく低い周波数を活用することが経済的である。実証においては、既存の周波数の活用も考慮した方がよいかもしれない。

また、経済性やネットワークとしての 5G の柔軟性を考えたとき、9 つの実証実験でそれぞれ個別最適のネットワークをつくるのではなく、底流にひとつのプラットフォームがあり、それを使うことによりそれぞれの目的に適したネットワーク環

境を提供するというインフラを考えていく必要がある。

○AIやロボットは重要なテーマである。AIの進化に合わせたネットワークの進化など、融合を考えるプロジェクトがあってもいいかもしれない。

また、遠隔医療など地方だからできること、地方にしかできないことにも目を向ける必要がある。(

○ユーザーと組み合わせた使用例に期待したい。そのためにも、どんな社会になるかのイメージを打ち出していくことが重要ではないか。

○プロジェクトの推進にあたっては、ビジネスの視点が重要である。技術面だけでなく、ビジネスモデルとして成立するものかという検証が必要。

○5Gに限らないが、ワイヤレスは切れることということを考える必要がある。コネクテッドカーもつながっていることを前提としてシステムの系が考えられているが、切れたときにどう補完するのか、ワイヤレスだからこそ考えていく必要がある。5Gのエコシステムについては、どこが標準を作っていくのがよいのかプロジェクトを進めながら考える必要があり、グローバルを考える上でもこの点が肝要。ヘテロジニアスなネットワークにおいては、防災等の目的に応じて用途を変えても瞬時に一面として使えるようにすることが重要であり、プロジェクトにおける技術検証のポイントだと思う。今後のプロジェクトの進め方については、例えば各プロジェクトで集めたデータを公開してアイデアを募集するなど、データのオープン化を前提として進めるとさらに身近なアイデアが出てくるのではないか。

○5Gにおいて無線の技術者は「情報配信」という発想から脱却することが必要。ワイヤレスが各分野の心臓部に入って行き、そのオープン性や柔軟性をどう活用していくかという発想が重要。

○実証課題については、まずデータを取るための実証を行い、次に集まったデータの使い方を開拓するというように、段階を踏んで進めるべきである。ITSや医療系、ファクトリー系の分野など、マーケットの大きいところをターゲットとしていくのも一案である。

○極端（エクストリーム）な要求仕様や使い方を実験を行い、そこから様々なことを掴むというのは良いアプローチ。また、2020年を一つの目標にするのであれば、早く周波数を決める必要がある。

プロジェクトは高速にPDCAを回すことが大事である。また、オープンデータでやるのも重要。ネットワーク開発とセンサーデータの活用に期待したい。

○技術検証やサービス検証だけではなく、社会実証までやる必要がある。次世代コネクテッドカーでは車がIoTの一つとなり、これ自身がプラットフォームとなり、社会実証となりうる。

○他の分野の人を呼び込む仕掛けが必要。他の産業の方とやっていくというのを大きく打ち出した方がいい。異業種で同じデータを使っていくなど、インフラとしてのデータプラットフォームを作っていくべき。生活がどのように変わるのか、具体的な利用シーンを示すと良いだろう。

○プロジェクトの推進にあたっては、ユーザーサイドの色々な業種と絡めて、AIやオープンデータ、データマイニングといった上のレイヤーも含めて考えると良いのではないか。そういったものがないと実際に利活用が進まない。

○世界を驚かす方法は3つあると思う。1つはエクストリーム、2つめはConnected - Unconnected、Disaster - Non-disaster の切り替え、3つめはワールドクラスのアプリケーションが考えられる。

○プロジェクトを進めるに際しての考え方については、ユースケースやユーザエクスペリエンスなどを重視する姿勢を表すため、技術視点が無い方が良い。ビジネス視点で見ると、データやサービスから収益が上がるループの中に5Gがあるなど、違う産業の利益から投資が戻ってくるという発想が重要。

○コネクテッドカーは海外に輸出されることもありうるので周波数のサポートの問題がでてくるが、グローバル展開するが国内で作るときにはモジュールとして全ての周波数に対応させなければならないというのは大変だろう。「周波数の確保」を何のためにやるのかという視点も必要。

③その他

事務局から、今後の会合の開催スケジュールについて説明が行われた。

(3) 閉会

以上